

## やまがら

静岡の自宅で家族と過ごす週末と、東京での仕事に追われる平日。新幹線に乗り、月曜日の朝に静岡から東京へ、金曜日の夜に東京から静岡へと移動する生活を毎週繰り返す。そんな「二地域居住」と呼ばれるライフスタイルを実践して数年が経つ。二地域居住とは、「主な生活拠点とは別の特定の地域に生活拠点を設ける暮らし方」を指すとのことだが、そのような言葉があるということを知る前からこのスタイルを実践することを決めていた。

それには様々な理由があるが、静岡に家を構えたのは、子どもたちに自然豊かな環境で育ててほしかったからだ。静岡の中でも田舎に近い地域で山も近く、空気も澄んでいる。東京での生活は経験上便利な面もあると思うが、子育てや心のゆとりを考えると、静岡の暮らしは大きな魅力だった。また、生まれ育った土地で暮らせる安心感は大きいし、これまで希薄であった親との距離感も適度に保つことができる。

子どもと過ごせる時間は基本的に週末だけだが、その分、一緒にいる時間を長くとする心がけている。近場の公園などに出かけたり、庭でバーベキューもしたりする。子どもと一緒に過ごす時間は、平日の緊張をほぐし、仕事への活力を与えてくれる。たまにテレワークを静岡で行うこともあり、その日は子どもの帰宅を迎えながら仕事ができる。そんな日は、二地域居住の価値を強く感じる瞬間だ。

こうした暮らしがなんとなく成り立っているのは、平日、家庭を支えてくれている妻のおかげだ。子どもの世話、学校行事、家事のすべてを一手に引き受けてくれている。私は週末にできる限り家事や育児を行うが、正直、妻の負担は

大きく、申し訳ない気持ちも常にある。それでも東京での仕事に理解を示してくれている妻には、感謝しかない。

もちろん、理想だけでは語れない。交通費は決して安くはないし、移動時間も積み重なれば負担になる。新幹線の車内で資料を読み、メールを返さなくてはならないことも多い。二つの拠点を維持するためのコストも無視できない。光熱費や住居の維持管理の手間は、思いのほかかかる。

さらに、地域との関係づくりも課題だ。静岡では「よそ者」にならないよう、自治会や学校行事にできる限り参加している。二地域居住は、単なる別荘暮らしではなく、双方に責任を持つ暮らし方だと痛感している。

こうした課題を乗り越えるため、自治体や企業の支援が広がっているようだ。二地域居住者向けの情報提供や住宅支援が進み、ワーケーションに取り組む企業や地方勤務制度を整え始めている自治体もある。今後は交通費補助やシェア型拠点など、より柔軟な仕組みが増えるだろう。

自分自身、この暮らしを始めてから、価値観が変わった。都市と地方を行き来することで、仕事にも家庭にも新しい視点が生まれる。静岡で過ごす時間が、東京での仕事に活力を与えてくれる。

「どちらかを選ぶ」時代から、「両方を生きる」時代へ。静岡と東京を行き来する生活は、決して楽ではないが、その豊かさは何ものにも代えがたい。地方と都市、家族と仕事。そのバランスを自分らしくデザインすることが、これからの暮らしの鍵になるのかもしれない。

(AI ビギナー)

## 二地域居住